

宇土市公共事業再評価委員会概要録

日 時	令和 6 年 10 月 17 日（木） 13：30～15：40
場 所	市役所 1 階会議室 1
要 件	第 1 回 宇土市公共事業再評価委員会
出席者	宇土市長 元松 茂樹（代理 宇土市副市長 谷崎 淳一） 公共事業再評価委員会委員 5 名 滝川 清、中村 茂、吉川 満璃子、岩村 由紀也、吉野 聡 建設部 草野部長 土木課 竹下係長、末吉技師 企画課 三浦課長、石山係長、森山参事
欠席者	公共事業再評価委員会委員 北野 安正
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 副市長挨拶 挨拶後、副市長退席 4 委員長選出 滝川委員に決定 5 委員長挨拶 6 再評価委員会について 事務局より委員会の概要及び再評価制度について説明 7 再評価対象事業概要説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 準用河川船場川改修事業について 事業担当課から船場川改修事業について概要を説明 (主な質疑・意見等) ・工事はいつ終わるのか。 →本線は令和 11 年度完了を目指している。国・県の補助活用に当たり、時期が遅れる可能性もあるが、早く進めていきたい。 ・計画規模は 30 年に 1 回の確率を想定しているが、近年は災害が多発し、80 年、90 年を超える確率の雨量が懸念されている。中小河川では通常の基準であるが、30 年に一度しか耐えられないので危ない、という認識が必要。それに対しどのように対応していくかが大事。 また、多額の費用をかけて工事しても、メンテナンスも必要になる。それでも 30 年に一度の雨量しか耐えられない。その他の対策をどうするか考えないといけない。

・近年の水害の状況は。

→資料2 準用河川船場川改修事業 事業説明資料18頁の被害状況の写真は平成20年度。最近では平成28年度の地震の後の大雨がある。県全体で降ったが、松原排水機場を十何時間フル回転させている状況だった。平成29年からは用水期間中は雨が降ると分かった時点で、あらかじめ土地改良区にお願いして水を抜いてもらっている。また、ポンプの強制排水を、満潮の場合は2時間前から開始していたのを3時間前に早める等、農林水産課と連携して対応している。

・市町村管理の河川が被害が大きいのか。

→浜戸川は潮の影響が大きい。ゲート開けていると田中会館まで潮が来ることがある。

・有明海は干満の差が大きいので満潮になることを考えておかないと、排水ができなくなりオーバーフローする。経験がない、最近はないと思っているのが危ない。災害が起こり得ることを前提に考え、危機意識をもって考えていかないといけない。

・浸水想定エリアのマップはどのような洪水に対するマップなのか。何mくらい浸水するのか。30年確率でこの状態であるので、地球温暖化に起因する災害を視野に入れていかないといけない。

・調整池が草が生えて汚い。費用が発生すると思うが整備をお願いしたい。

(2) 準用河川大坪川改修事業について

事業担当課から大坪川改修事業について概要を説明

(主な質疑・意見等)

・計画規模は、5年と30年に設定してあるのはなぜか。次回の会議で詳しく説明をお願いしたい。

・流量が多いのは船場川か？

→船場川が多い。満潮重なると大坪川へ逆流するが、水門で一旦受け止め、逆流を防いでいる。水門よりも潮位が高いと若干逆流することもある。

・整備済区間について、先に上流を整備すると流量が多くなり、下流で受け止めきれない。普通は水門側の工事が先ではないか。施工順を決めた経緯を知りたい。

→松原排水機場に抜ける導水路がある。浜戸川の上流部に碓江堰があり、その堰から馬之瀬町の導水路を經由して船場川に用水として水を送っている。雨の時は、排水機場の導水路を通して排水している。排水機場が完成すると、排水量も増えるので浜戸川から大坪川に逆流する現象は防げる。大坪川の整備順の根拠も次回示す。

・工事の話をするときは、整備したという局所的な情報だけではなく、これ

までの経緯を含め全体的なところから考えていかないといけない。どのような整備順が効率的か、ポンプ能力がどのくらい必要かなどが大事となる。

8 現地視察

船場川、大坪川及び松原排水機場の現地状況を視察

次回の会議は、令和6年11月15日（金）

次回会議において、以下の資料を準備する。

- ・工事の設定基準（設計計画高）と進捗状況が分かる資料
- ・災害リスクへの対応方針
- ・大坪川改修事業の整備順序の根拠